

■令和7年 9月8日 No.14「かな文字 7」

昨晩は総理大臣がおやめになるとか、阪神タイガースが優勝するとか、また月が地球の影に入り皆既月食がおこり、月が赤銅色に見える現象がおこったりしました。

いいところ見つけたよ(10)では、先週、校長先生が腕にシップをはっていると、「校長先生、その腕どうしたん？」ときかれることがよくありました。この学校には、ひとのケガを心配してくれる優しい子が多いなあとうれしく思いました。校長先生は、先週家の畑で、イノシシよけの杭をたくさん打ち過ぎ、そのせいで腕が筋肉痛になったのでした。今ではすっかり元気になりましたので、ご安心ください。

それでは、先週のお題 ①「ゐ」のようなつかわれなくなったかな文字は他にあるかな？ ②なぜ昔は300以上のかな文字があったのか、③どうして254文字のかな文字は消えたのかというお題でした。②③は難しかったようですが、①については、たくさんの回答をしてくれました。ありがとうございます。「ゑ」「井」「エ」などの文字がたくさん書かれていて、びっくりしました。よく勉強している子が多いですね。

「い」と「ゐ」なぜ同じ発音のひらがながあるのか？それは、もととなる漢字がいくつもあるからです。例えば、「い」の音を、この街では「以」という漢字を使っていたので、ひらがなはそれを略したものだから「い」、また違う街では「為」という漢字を使っていたので、略すと「ゐ」となります。「井」を使っていた人もいました。略すと「井」となりました。同様に「え」の音を「衣」を使っていた人は「え」、「恵」を使っていた人は「ゑ」となり、「江」を使っていた人は「け」をかな文字で使っていました。このように1つの音にかな文字は5～6種類確認でき、全部で300以上のかな文字があったというわけです。また「ゐ」や「ゑ」のように現代では使われなくなったかな文字を「変

体仮名」と言います。

いまは「す」と書くひらがなですが、昔は「す」でも「す」でもよかったのです。だから、お寿司のことを「おすし」と書いていることが多く、今でもお店の名前に使っているところが割とあります。これはお店の看板ですが、なんて書いてあるかな？そう、うなぎ、おたふく、やぶそばと書いてあるのです。昔のひらがなが、今も大切にされているんですね。



さらに、こんな変体仮名もあります。「𛄁」。これが何とよむのでしょうか？お手紙などに書く文字です。1音ではありません。「はらまさし 𛄁」と書くのですが、わかりますか？この「𛄁」な「より」と読みます。一文字で2つの音「よ」と「り」が入っているひらがなのです。このような合体させたひらがなを「合略仮名」と言います。外に「𛄂」や「𛄃」などもあります。

このように、昔は1つの音を多くの漢字からつくったので、300以上ものかな文字「変体仮名」ができ、覚えるのが大変でした。そこで、江戸時代の終わりごろには、今もよく使われる46文字にしばらくたったそうです。決定的だったのが、明治33年の小学校令施行規則という法律で46文字以外のはひらがなは使ってはいけないルールができました。こうして「ゐ」や「ゑ」は消えていったのです。

さて、今はひらがなを覚えるのに50音のひらがな表で覚えます。しかし100年ほど前まで、明治時代の小学校では、別のものを使って覚えていました。一体どうやって覚えていたのでしょうか？これを今週のお題とします。

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございました。